RX ファミリ C/C++コンパイラパッケージ V.1.00 Release 01 添付標準ライブラリについて

本製品では、RX600 用に標準ライブラリファイル(*.lib)を4種類添付しています。 添付の標準ライブラリファイルを使用することにより、ビルドに要する時間を短縮するこ とができます。

1. 添付ライブラリー覧

本製品に添付される、標準ライブラリファイルの一覧を表1に示します。

【ご注意】

ライブラリで選択している「マイコンオプション」は、ご使用のコンパイラオプションと 一致させる必要があります。いずれとも一致しない場合は、これらの標準ライブラリは使用 できませんので、ご利用のコンパイラオプション(アセンブラオプション)をライブラリジェ ネレータに指定して、作成されるライブラリをご使用ください。

	用途		マイコンオプション *1 *2		
ライブラリ名		最適化 ^{*2}		-cpu	
		オプション	-endian	-rtti -exception -noexception	その他 ^{*3}
rx600lq.lib	RX600、速度優先	-speed	1. 1. 1		-round=nearest
	リトルエンディアン	-goptimize			-denormalize=off
rx600ls.lib	RX600、サイズ優先	-size	-endian=little		-dbl_size=4
	リトルエンディアン	-goptimize		-cpu=rx600	-unsigned_char
	BX600 速度優先	-sneed		-rtti=on	-unsigned_bitfield
rx600bq.lib	ドッガェンディアン	-gontimizo		-exception	-bit_order=right
		goptimize	-endian=big		-unpack
rx600bs.lib	RX600、 サイズ優先	-size			-fint_register=0
	ビッグエンディアン	-goptimize			-branch=24

<u>表1 ライブラリー覧</u>

- *1 マイコンオプションは、コンパイラマニュアルの「2.5 マイコンオプション」を参照ください。
- *2 High-performance Embedded Workshop のビルド設定により、これらのオプションがどのように設定されているかを確認するには、コンパイラマニュアルの「表 2.7 最適化オプション一覧」「表 2.9 マイコンオプション一覧」の「ダイアログメニュー」欄を参照ください。
- *3 これらのオプション選択は省略時設定と同じです。

2. ライブラリ指定の方法

添付の標準ライブラリファイルを使用する場合は、2.2 または 2.3 の方法でリンクしてく ださい。

2.1 ライブラリの格納場所

統合開発環境のインストール先が C:¥Program Files¥Renesas¥Hew の場合:

 $\texttt{C:} \texttt{Program Files} \texttt{Renesas} \texttt{Hew} \texttt{Fools} \texttt{Renesas} \texttt{RX} \texttt{I} _ \texttt{0} _ \texttt{I} \texttt{I} \texttt{i} \texttt{b}$

(1_0_1は、コンパイラパッケージのリビジョンにより異なります。)

2.2 High-performance Embedded Workshop から選択する場合

ご使用のプロジェクトに対して、ライブラリを選択する手順を説明します。

- (1) プロジェクトを開きます。
- (2) ご使用のプロジェクトの設定を確認し、表1からライブラリを選択してください。
- (3) プロジェクトディレクトリを確認します。

ワークスペースウィンドウのプロジェクトを選択して、右クリックメニューの「プロパテ ィ」を選択して表示される、「ディレクトリ(L)」で確認してください。





この表示で、拡張子が.hwp であるファイルの格納場所がプロジェクトディレクトリです。 (4)(2)で選択したライブラリファイルを、上記 2.1 の格納場所から、プロジェクトディレク

- トリにコピーしてください。
- [コマンドプロンプトによる手順(4)の実行例]

 $\texttt{copy "C:} \texttt{Program Files} \texttt{Renesas} \texttt{Hew} \texttt{Fools} \texttt{Renesas} \texttt{Rx} \texttt{I}_0_1\texttt{Hib} \texttt{frx} \texttt{foolg.lib} \texttt{"C:} \texttt{Work} \texttt{Space} \texttt{sample} \texttt{$

(5) ワークスペースウィンドウのプロジェクトを選択して、右クリックメニューの「ファイ ルの追加 INS」を選択してください。

(6)(4)でコピーしたライブラリファイルを選択し、「追加」ボタンを押します。



(7) 「ビルド(B)」 → 「RX Standard Toolchain...」 を選択します。



- (8)「標準ライブラリ」タブを選択します。
- (9)「カテゴリ(Y)」のプルダウンメニューで「モード」を選択します。
- (10)「モード(M)」のプルダウンメニューで「既存標準ライブラリ指定なし」を選択します。
- (11)「OK」ボタンを押し、以上の設定を保存します。

RX Standard Toolchain	2 🛛
IV745 ¹ /2−9a7: Debug All Loaded Projects C source file C++ source file C++ source file Linkage symbol file	ユンパイラ アセンフドラ 最適化リンカ 標準ライフドラリ RTOS CPU 全般 カテコツ(Y) モート [×] モートド(M) 福津ライフ [・] ラリファイル指定なし ライフ [・] ラリファイル(L): 家(CONFIGDIR)¥\$(PROJECTNAME)Jib 変更(D)
	標準ライブラリ構築オブジョン:
	OK ++>>セル

これでプロジェクトの設定は完了です。

ビルドすれば、(6)で選択したライブラリがリンクされます。

2.3 最適化リンケージエディタに直接指定する場合

製品に含まれているライブラリファイルを、上記 2.1 の格納場所から、任意のディレクト リにコピーしてください。

次に、最適化リンケージェディタの Library オプションにコピーしたライブラリファイル を指定して、リンクしてください。

以上